

宇治市乳幼児教育・保育推進協議会

発達・子育て支援専門部会通信（第2号）

令和5年7月18日（火）に、令和5年度第2回宇治市乳幼児教育・保育推進協議会 発達・子育て支援専門部会を開催いたしました。
部会の様子をお知らせします。

第2回の主な内容

○検討

（第1回で抽出した課題に対する検討）



専門部会とは

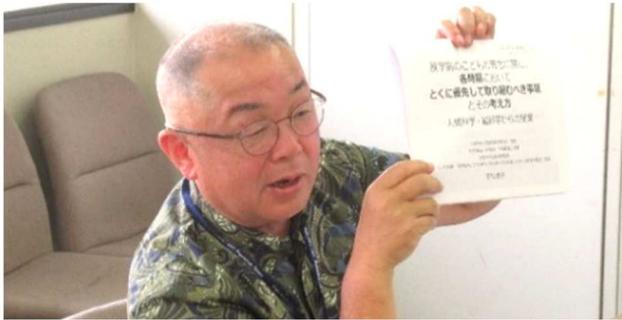


「保幼小連携」「発達・子育ての支援」の推進にあたり、現状の把握、課題抽出、対応策の検討、研究・研修の企画実施等について、乳幼児教育・保育の実務をよく知る職員の意見を反映できる仕組みとするために設置したものです。



○検討（第1回で抽出した課題に対する検討）

第1回で出された課題についての検討を行いました。



研修や交流事業、事例研究などで歩みを共にしていくことにより共通認識ができ、支援の方法の共有化を図ることができればと考えています。





第2回発達・子育て支援専門部会 主な意見

「保護者支援の難しさ」に関連して...

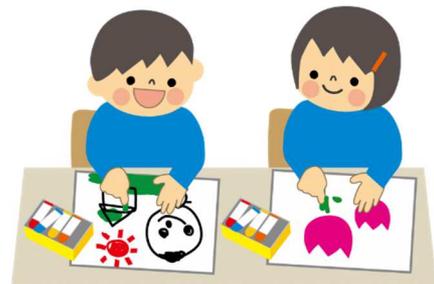
- 勉強にだけついていけばいいという考えの保護者に対する対応の仕方
集団の中での課題について理解してもらうことや保護者とともに一緒に考えていくことの難しさ
- 就学前施設に通っている子どもの保護者に対する支援の少なさ
- 行事など保護者同士のつながりを築く機会の減少
- 保護者同士で支え合う仕組みの必要性
- 保護者も学べる研修の必要性

「就学前施設の職員が療育のスキルを培っていけるような仕組み」に関連して...

集団保育では指示言語が多くなる傾向にあり、きめ細やかな対応が取りづらい
子どもの思いを汲み取る力の必要性
療育施設による就学前施設への訪問で、場面によっては療育施設の先生に助言をいただくなど、違う視点からの助言
療育施設の先生が有するスキルやノウハウを共有できるような研修機会の確保

「定期的に専門の方に来ていただけるような相談の仕組みがあればよい」に関連して...

臨床心理士などの専門職、大学教授などの専門家による研修
専門職等も含めた公私の垣根を越えた巡回相談制度の確立



(仮称)宇治市乳幼児教育・保育支援センターとは

施設類型を越えて全市的に連携・協働し、各施設での取組を共有することにより、これまで以上に、保幼小連携の取組推進や人材育成など、教育・保育の質の向上を図ることが可能となると考え、その仕組みづくりとして設置するもの。

宇治市乳幼児教育・保育推進協議会とは

すべての就学前施設が施設類型を越えたネットワークを構築すべく、乳幼児期の子どもたちの状況や課題を共有し、連携、協働して研究・研修を行うことで、教育・保育の質の向上及び人材育成を図るとともに、各施設間、家庭・地域の教育・保育力の確保・向上を支援するため、設置したものの。

